

Economic Indicators

発表日: 2025年2月14日(金)

日本経済指標: 来週の指標予測と今週の振り返り

～来週は「10-12月期 GDP 速報」、「貿易統計」等に注目～

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

○来週 (2月17日～2月21日) の主な指標予測

	指標名	当社予測	市場予測	前回結果
2月17日 (月)	8:50 10-12月期 GDP1 次速報			
	実質 GDP 成長率(前期比)	+0.2%	+0.2%	+0.3%
	(同年率)	+1.0%	+1.0%	+1.2%
	名目 GDP 成長率(前期比)	+1.1%	+1.2%	+0.5%
	GDP デフレーター(前年比)	+2.7%	+2.7%	+2.4%
	13:30 12月第3次産業活動指数			
	(前月比)	—	—	▲0.3%
13:30 12月鉱工業指数・確報	鉱工業生産指数(前月比)	—	—	+0.3%
	13:30 12月商業動態統計・確報			
	小売業販売額(前年比)	—	—	+3.7%
2月19日 (水)	8:50 1月貿易統計			
	輸出金額(前年比)	+6.9%	+8.3%	+2.8%
	輸入金額(前年比)	+10.3%	+10.1%	+1.7%
	貿易収支(原数値、億円)	▲21,978	▲21,004	+1,325
	8:50 12月機械受注統計			
船電除く民需(前月比)	▲1.1%	+0.3%	+3.4%	
2月21日 (金)	8:30 1月消費者物価指数(全国)			
	全国総合(前年比)	+4.1%	+4.0%	+3.6%
	全国コア(前年比)	+3.1%	+3.1%	+3.0%

(注) 市場予測は Bloomberg、日経 QUICK 調査をベースに作成

10-12月期 GDP 1次速報・実質 GDP 成長率 当社予想: 前期比年率+1.0% 中央値: 同+1.0%

前期比年率+1.0% (前期比+0.2%) と予測する。3四半期連続のプラス成長が予想され、前年比でも2四半期連続でプラスとなる見込みである。景気は緩やかに持ち直していると言って良いだろう。ただし、10-12月期は表面上の数字よりも内容が良くないものになるとみられることには注意が必要だ。10-12月期の成長率を押し上げるのはもっぱら外需とみられるが、これは輸入の減少によるところが大きい。一方、内需は前期比でマイナスが見込まれ、精彩を欠く結果となるだろう。(シニアエグゼクティブエコノミスト: 新家 義貴)

12月機械受注・船舶電力除く民需 当社予想: 前月比▲1.1% 中央値: 同+0.3%

12月の機械受注(船舶電力除く民需)は前月比▲1.1%の減少を予想する。11月、12月と急増した製



造業で反動減が出やすいとみられ、全体でも3か月ぶりの減少に転じると見込む。仮にこの結果通りとなると、10-12月期の機械受注は3四半期ぶりの増加となる。先行きも企業の投資意欲は強く、均せば持ち直しが続くと見るものの、輸出や生産活動が冴えない中で機械受注も緩やかな伸びに留まるだろう。（副主任エコノミスト：大柴 千智）

1月貿易統計・貿易収支額（原数値） 当社予想：▲21,978億円 中央値：▲21,004億円

1月の貿易収支を▲1,038億の赤字（季節調整値）と予想する。1月は為替相場が円安傾向にあったことから輸出、輸入ともに価格ベースでの押し上げが見込まれる。もっとも、物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）については停滞感が強い状況が続いており、12月の急増からの反動も加わり前月比で減少する可能性が高い。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

1月全国消費者物価指数（生鮮食品除く総合） 当社予想：前年比+3.1% 中央値：同+3.1%

CPI コアは前年比+3.1%と、12月の+3.0%に続いて+3%台になることが予想される。外国パック旅行の前年比での押し上げ寄与がテクニカルに剥落する一方、食料品価格の上昇やガソリン・灯油補助金の縮小が押し上げ要因になるだろう。

（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

○来週（2月10日～2月14日）の主な指標予測

	指標名	結果	市場予測	前回結果
2月10日（月）	8:50 12月国際収支統計			
	経常収支(原数値、億円)	+10,773	+13,622	+33,525
	14:00 1月景気ウォッチャー調査			
	現状判断 DI(季節調整値)	48.6pt	—	49.0pt
	先行き判断 DI(季節調整値)	48.0pt	—	49.4pt
2月12日（水）	8:50 1月マネーストック			
	M2(前年比)	+1.3%	+1.2%	+1.3%
	M3(前年比)	+0.8%	+0.7%	+0.8%
	広義流動性(前年比)	+3.6%	+3.5%	+3.7%
2月13日（木）	8:50 1月企業物価指数			
	(前月比)	+0.3%	—	+0.3%
	(前年比)	+4.2%	+4.0%	+3.8%

（注）市場予測は Bloomberg、日経 QUICK 調査をベースに作成

1月企業物価指数・国内企業物価 当社予想：前年比 % 中央値：同 %

1月の国内企業物価は、前月比+0.3%、前年比+4.2%となった。前年比では前月から+0.3%pt 拡大しており、23年6月以来の4%台の上昇率となった。今月の主な上昇率拡大要因としては、政府による燃料油補助金が縮小されたことを反映して石油・石炭製品のプラス寄与が拡大したこと、コメ価格を中心に高止まりしている農林水産物が、昨年同時期に下落していた裏が出たことでプラス寄与が拡

大したこと等が挙げられる。

- 詳細は、2/13 発表「企業物価指数(2025年1月)～ガソリン補助金の縮小で前年比4%台まで伸び拡大～」(<https://www.dlri.co.jp/report/macro/414143.html>)もご参照ください。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。